

## 令和2年度同窓会総会に寄せて

校長  
佐野 修

---

---

令和2年度山梨県立甲府東高等学校同窓会総会にあたり、御挨拶を申し上げます。同窓生の皆様には、日頃より、母校である本校の教育活動に深い御理解と多大なる御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は、4月に本校に着任しましたが、いつもならグラウンドや体育館から部活動中の元気な生徒の声が聞こえてくるところ、学校敷地内は静まりかえっており、今まで経験したことのない新年度のスタートとなりました。それでも、4月7日の始業式、8日の入学式の準備を職員と進め、生徒の登校を楽しみにしていたのですが、県教育委員会より、3月からの臨時休業を4月末まで延長する旨、通知があり、最終的には5月下旬まで休校措置が続くことになりました。

学校が再開してからも、教育活動は、常にコロナ禍の影響を受けております。県高校総体やインターハイ予選、文化部のコンクール等の中止を始め、校内行事でも生徒会最大の行事である蒼龍祭を行うことができませんでした。3密の回避とともに人との距離をとる、マスク着用の励行、会話を控え大声を出さない、昼食は対面を避け、前を向いて黙って食べるなど、およそこれまでの学校生活では考えられなかったことが、「新しい生活様式」として求められることになりました。

人と人との様々なふれあいやコミュニケーション、集団のきずなを大切にしてきたこれまでの学校の常識が、ことごとく通用しない異常さに、改めてこのウイルスの恐ろしさを感じます。しかし、このように多くの制約や困難があるにもかかわらず、現在、本校の生徒達は、新しい生活様式を踏まえた学校の日常を創出しつつあります。

9月25日（金）、28日（月）に実施した学園祭の代替行事は、まさにそのことが現れた取組でした。生徒会本部が行ったアンケート調査をもとに、感染防止対策を念頭に置き、球技大会や初めて実施する運動会の競技種目・ルールを検討し、全校で楽しめる新たな行事を実現させました。授業時数確保で夏休みも短くなるなど、慌ただしく、十分な時間のない中でも、生徒達はよく考え、意見調整を図り、取組を成功へと導きました。そのようなたくましさを見ることができ、大変嬉しく思っています。

学校は後期に入りましたが、依然として感染状況が終息する様子はなく、秋冬の教育活動の見通しも困難な状況にあります。特に2学年が12月に予定している沖縄への修学旅行が難しく、生徒・保護者へのアンケート調査をもとに保護者会を開催し、現在は、行先を変更し、日程も1泊減らす2泊3日の方向で検討しております。

この他にも、多くのことがコロナ禍に左右され、同様に変更や中止の判断をする場合もあるかと思いますが、皆様には、これからも変わらぬ御理解、御支援を賜りますようお願い申し上げます。本校同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍をお祈り申し上げ、あいさつと致します。